
キレイナアオゾラ

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キレイナオゾラ

【Zコード】

N6075C

【作者名】

鈴夜 音猫

【あらすじ】

あの日彼女は何処までも澄みきつた青い空を見上げ、何を思つていたのだろう…幼馴染みの少年と少女。あの日、二人の間に何があったのだろう…

何処までも澄みきつた空なんて、大嫌いだった。

あの日の空は何時にも増して、青かつた。そして、その空に浮かぶ白い入道雲は、恐い程くつきりとその姿を浮かびあがらせていた。しかし、それを遮る様に張り巡らされた電線も、そこにはあって…

『まるで、空が囚われているみたい』

僕の横を歩きながら、彼女はそう呟いた。その瞳は何処か暗い影を落として…
けれど口下手な僕は、何時もの様に気のない返事を返しただけだった。

そんな僕に、彼女は少し寂しげに笑っていた。

彼女と僕は小学校からの幼なじみだった。

出会いは三年生の秋。転校してきた僕に、初めて声をかけてくれたのが彼女だった。

『椎名敬くん…？私、葛木紫乃よろしくね』

ずっと友達のいなかつた僕に向けられた、優しい微笑み。僕はすぐには彼女と打ち解けた。

彼女は不思議な人だった。明るくて、でもどこか寂しげで…
僕はそんな彼女に惹かれていたのかもしれない。陰と陽とを兼ね備えたその雰囲気に。

けれど口下手な僕は、なかなか素直になれなかつた。でも彼女は、そんな僕でも相手にしてくれた。

『椎名くんらしくて良いよ』

無口な僕に彼女は何時も、そう言って笑ってくれた。

周りから何処か冷たい目で見られる僕を、初めて認めてくれた人。

嬉しかった

僕を真っ直ぐに見て、話してくれるその存在が。

救われたんだ

僕は何時も孤独ひとりだったから。

なのに

僕は気付けなかった。

君は僕を理解して、僕を支えてくれたのに。僕は君を理解していないかったんだ。いや、しようとしていなかつた。

そんなやつが、支えになんてなれるはずもなくて…

あの日。君が本当に言いたかった事を、僕は気付いてあげられなかつた。

いや、多分僕は気付いていた。

『まるで私のよう…』

君はそう言いたかったんだよね。囚われた空を自分自身に重ね合わせて。

そして僕は、気付かないふりをして君を傷付けた。

もし僕が気付いていたならば、君はあんなに苦しむ事はない
つたり。

「あん。

謝つてももつ遅いけれど、でも、謝るしか今の僕には出来ないから…

「あんな

分かってるよ。

優しい君の事だから、僕に謝つて欲しいわけじゃないんだって。

でも…

そんな君だからこそ、僕は謝りたいんだ。

もう過ぎ去った過去の出来事で、取り返しのつかない事だけれど
も。それでも僕は…

あの日、君が居なくなつた踏み切りで僕は唯、見つめている。
君が可哀想だと思つただろ？、電線に囚われた空を。

そして考えるんだ。

君がどんな思いで生きてきたのか。

あの冷たい家庭の中で。血の繋がりのない孤独に怯えながら。

君はずつと辛かつたんだね。だから僕の中の孤独に気付いて、傍
に居てくれたんだね。

そして最後まで、僕を助けてくれたんだ。

そんな優しい君に、謝る以外にしてあげられる事。

それは…

ありがとう

在り来たりだけど、これが素直な僕の気持ち。

そして誓つよ。

もう一度と、君の様な可哀想な子を生み出してはいけない。僕達の様な孤独な子を生み出してはいけないから。

だから僕は戦うよ

そして精一杯生きるんだ。

君が助けてくれたこの命。無駄にするわけにはいかないから。

それに、

僕はもう

ひとり
孤独じやない

(後書き)

どうもですーーー今まで読んで下さり、ありがとうございますーーー
ーーー 今回のお話で、最後彼女が彼をどう助けたか。それは皆様
の想像にお任せします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6075c/>

キレイナアオゾラ

2010年10月9日01時20分発行